

原爆に關する詩集の編纂につて

一、主旨及び経過

1. 原爆の實状を訴へ、あはれやう苦悩を致すことにある果すべく、平和を力に偉大である望むるの心未だくもその声は弱く、「原爆の園」「原爆の子」などの絵画、文章(成功)に比べ、詩に於てより上げ、全世界に感の深い、このテーマを強力に披瀝し詩に於てより上げ、全世界に展開するべきである。平和運動の一環として、人々の美意識に、原爆の悲愴と、その使用を意圖する者への憎悪を植えつけ、戦争のことは、使命、現存の急務があり、又、広げ、我々の、是れ、重大な、任務があると思ふべし。

2. 敗戦以来、在りた文化活動家の一都に於ては、原爆の詩の書き出し、著者が少くしたが、まこと、外的條件の困難さ、個人の努力の殆どしることもよる、教養的、小規模に終るに居り、わが、今「原爆の園」が、未だより刊行されまうと、停刊し、い、休刊する。このような状況の中で、進歩的出版社である、青木書店より、(先頃)「原爆の園」と出版、三月、上旬、異なり、由り、合せ、発表、五月、上旬「原爆の園」(詩集)の出版、協力の、計画として、在り、よ、る、詩集と刊行しない、申し出、あり、主旨、なる、出版、社、情報、度、より、みる、協力、目録、し、の、し、は、引、受け、を、回、つ、る、し、り、である。

二、内容・体裁・時期・其他

1. 詩集とする。(頁数、定價未定、解説カット、口絵、跋文、出版社に任す)
2. 詩は技巧的なるものなく、拙くても真情が溢れたい。
3. 子供の詩を二三とし、一般、学童、成人、労働者、未成人等とする。(1-3)
4. 青木書店の形式とする。
5. 編纂者は味とする。
6. 6月、6月、20日、八月までに出版する予定。(以上すべて青木の注文)

三、原稿の蒐集 (このような方法をとる方がいいかと思う)

1. 假稱「原稿」に因する詩集、編集委員会をしようけよ。
 2. 出版より日組文化部に交渉中であり、ましまり次第
果敢組(市)を通じて(あるいは六書と同封し、又は連名の文書で)
原稿の蒐集依頼を各学芸担当教師宛に出させる。(文書別紙)
(この時販売部にもあるらしい)
 3. 其地の各文化、文学団体、協力をもとめ各個人宛
原稿用紙と同封して依頼文を送付する。(依頼文別紙)
 4. 新聞による一般募集あり。
 5. 各人の知人への依頼又、各人自身も執筆する。(すでにましまり次第)
(ましまり)
- ① 編集委員会には、文学会、われら、待う会の会費活動家
その他の文学活動家、教員等七八名による構成し、
事務、渉外、原稿蒐集(子供、婦人、一般)に任せて
令担、随時命令を用いて任るを全面的に推進する。
 - ② 「原稿の子々今」「子供と字の会」「教員グループ」
「原稿に徒然の集會」「原稿進達會」「原稿障害者會」
その他、他の文学団体には全員に依頼状を出す。
 - ③ 長田への協力を求める。
 - ④ 事務局にも ^{此処} アパートを借りて置く。
 - ⑤ 原稿には略し、補遺、状況(誰と来たか)を付記させる。

四、財政その他

出版者より印税のみならず編輯者も、^時に割り受けられ、
ことになるように、これを左のごとく配分する。

- 一、編輯者 〇、五
- 二、編輯者、委員会 〇、五 (この分は委員会に任)
- 三、原作者は本を一部宛定額することにする。

原簿を集り出極限的におさまぬと金が入らぬので
 目録の活動費として三〇〇〇円の準備金がある。(印刷送書等)
 (これは現在用意してある)

— 以上 —

其他原簿蒐集のため協力を得る必要のある人物に重点的に
 あげてリストを青木に送付してもらいたいとのこと。
 それらの宛て「原簿蒐集」と題して側面より増進射撃とする由。

◎ 今日きめぬこと

- A. 以上の検討 (蒐集方法の検討)
- B. 仕方の分担
- C. 各人、各自の金銭として当分の仕方
- D. 次の打合せの会

三十一日 → 西條の送子
 まるごと → 工部局

主として、決定其他の文書をつくること。
 原簿の簿籍簿を各人の手合し、その名刺をつくる。
 原簿の簿籍簿をつくる。

既刊の簿籍 (牛車馬券など)
 あつめよ。
 新刊の簿籍をつくる。

青木の出版意を
 をつくらせること

六月一日 10 時から 10 時。
 六月三日 午後五時 — 三時

（以下各個人へ出下り）
（厚待用紙（青紙より用紙をある）同封す）

拝啓 初夏の候 益々清邁の候と成ります。
さて此の度の ~~表~~ 表紙 青紙 書店より 厚燻紙にて
した 詩集が 刊行されることとなり 貴方の 於てより 編集
に着手して 居ります。

厚燻紙による 胸のきざまねた 思いを 広く 社会に 訴へて
平和の力に 資する ことは 尤も 貴方の 志望と して せし 果さねば
なしく 健命 であり、 今こそ 貴方も 必要を 機会 である
と思はれます。

つきまゝとは 此の 詩集の 中 せし 貴下の 作品を 入れさせて
頂きなく、 内野の いなします。

評といふまでも 作品の 巧拙は 由はず、 厚燻紙に 許す。
おねを 思いも 卒直に 書り下されば 幸甚と
存じます。

どうか 以上の 意圖に 依り 成りて 貴方の 作品を 送
下さる ようお願い 申上げます。
敬 具

- 尚 一、 なるべく 同封 厚待用紙に 依り 使用 下さい。
 - 二、 一人 何編 にも 含ま しません。
 - 三、 選擇は 編集者 による 仕下り。
 - 四、 厚待の 末尾に 年月日、 年令、 職業、 社燻紙 次を 付記 下さい。
 - 五、 厚待 切、 六月二十日、 （八月 までに 出稿 予定）
 - 六、 送付先、 大阪市 平野町 平野 第三ビル 十一号
- 右の 要領に 依り 配 上 願 下さい。

一九五二、五、三一

様

厚燻紙に 関する 詩集の
編輯 委員会

詩

三 廿